



お客様からのコメント

いつも、楽しく拝見させて頂いています。具足の変化がとても勉強になりました。カッコイ具足の組み立て方を教えて下さい。宜しくお願い致します。(熊本県 Y様より)

弊社での 具足の組み立て方をお伝えします

1 はいだて 佩楯の紐を、櫃の後ろ側で結びます。

2 ひつ 櫃の上にスタンドを置き、胴を装着します。

3 胴紐を、結び目が中央になるように結びます。(紐がない具足もあります)

4 こて 籠手の中に布または新聞紙などを詰めて籠手を装着します。(立体感を出す為)

5 籠手の上に袖を装着します。

6 めんぼお 面頬を装着します。(当社では、面頬が落ちるのを防ぐために画紙で紐を止めています)

7 兜をかぶせ、前立を装着します。(面頬との高さが合わない時は布や新聞紙等を兜の中に入れて、高さを調整して下さい。)

8 すねあて 脛当の中に布または新聞紙などで筒状に成形します。



POINT!! ポイントは、籠手の位置です! 肘をまっすぐ伸ばさず、少し曲げて“どっしり”と構えているようにすると具足がカッコよく見えますよ。少しでもご参考になれば嬉しいです!! 分からない事があればお気軽にご連絡下さい。動画で具足の組み立て方を紹介していますので、是非ご覧ください。➔



届けますっ! 大和魂 2022年12月 Vol.51

经营理念

有限会社大名は「届けますっ!大和魂」を合言葉に日本の歴史、古美術を発信し、貴方(お客様)の趣味を応援するタイムマシーン企業を目指します

～ご挨拶～

2022年も「有限会社大名」をご愛顧頂き誠にありがとうございました。今年も残すところ、僅かとなってしまいました。2023年も、皆様がどうか体調を崩さず笑顔で新しい一年を迎えられるように願っております。来年も引き続き「届けますっ!大和魂」を宜しくお願い致します。

大晦日 眠たくなれば 大和魂



【意味】大晦日は遅い時間まで起きていたい... だけど眠たくなってきた... そんな時は大和魂を読んで 眠気を覚まそう。

こんにちは。中堀明美です。

厳しい寒さが続いています。体調など崩されていませんか? 早いもので12月、お鍋が恋しい季節になりましたね~! 鍋料理の起源は古く、縄文~弥生時代から土器に食べ物をいれ、火にかけて煮炊きをする習慣がありました。「菜を煮る」と言われ、おかずを煮る土器のことを指しました。現代の鍋の形と異なり底が深く、煮込めば硬くて食べられない食材も、軟らかくなり食べやすくなったそうです。栄養の吸収率も高まり、山・海の幸に恵まれた日本では、旬の食べ物を煮炊きすることで旨みや栄養を上手にとっていたと言われています。

鍋を囲んで食べるようになったのは...

江戸時代に「卓袱」という料理が登場してからと言われています。長崎の郷土料理のひとつで、大皿に料理を盛り付け、各々自由に取り分けて食べる料理のことです。中国から日本に伝わり、日本独自の文化として発達しました。



～小鍋が流行～

江戸中期ごろ、簡単に持ち運びできる七輪・火鉢などに鍋をかけ、煮ながら食べる小鍋料理、ねぎま鍋、湯豆腐、あさり鍋、どじょう鍋など食を楽しんでいたそうです。



～明治時代の鍋～

*富国強兵政策がとられ、それまで禁止されていた肉食が推奨されるようになりました。そこで登場したのが「牛鍋」です。鉄製の鍋に牛肉とネギを煮込み、庶民にも受け入れやすいように、醤油や味噌味だったため牛鍋ブームが巻き起こりました。明治天皇も好んで食べていたそうです。現在ではさまざまな鍋料理が登場し、年々その種類は増え続けています。最近では韓国料理をもとにした「キムチ鍋」や「チゲ鍋」なども人気ですね。(*明治政府が経済の発展と軍事力の強化によって近代的な国家をめざした目標です。)

美酒鍋

我が家では広島のご当地鍋「美酒鍋」を作ってみました! 広島県に「賀茂鶴酒造」という有名な酒蔵があります。「美酒鍋」は、そこで働いている蔵人(職人)さんの贈り料理として考案された料理です。鶏むね肉、ズリ、厚揚げ、こんにゃく、野菜などを日本酒で煮込んだものです! アルコールは火で飛ばしますのでお酒が飲めない方、子供さんも食べられますよ!



俺の日本酒が...



家族や友人と鍋を囲むと、不思議と会話も弾みます。何気ない時間ですが、とても幸せに感じました。鍋は、栄養も満点で体も心も温まる! 皆様は何鍋が好きですか? こんな変わったご当地鍋があるなど、是非お聞かせ下さい! 「美酒鍋」のレシピが知りたい方はお気軽にご連絡ください。

美味っ!



今号の大和魂はいかがでしたか? 皆様のご意見・ご感想どしどしお寄せください。お待ちしております。 件名:ニュースレター返信と入力して送信して下さい。



最新情報は こちらから ホームページ <https://daimyou.com/>
広島県尾道市栗原町2-1 3F Eメール sengoku-54jp@hi.enjoy.ne.jp
TEL.0848-29-3936 FAX.0848-29-3937

有限会社 大名

こんにちは、島谷貴子です。

今号は、「雑賀兜」を語らせて頂きます。



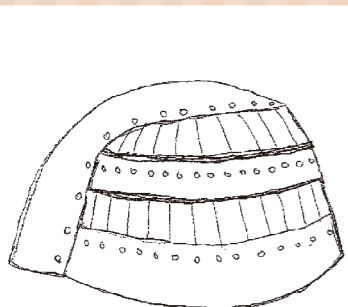
語ります 大和魂

いつから? 室町時代末期頃に、紀伊国雑賀(現：和歌山県和歌山市)で、独特の形の兜が登場します。それが「雑賀兜」です。

特徴は?

特徴一

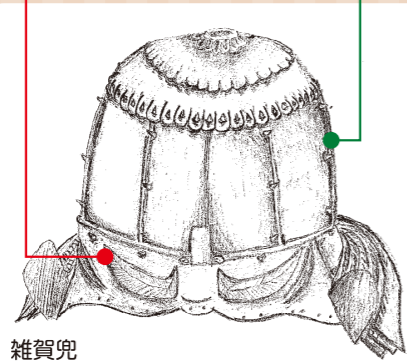
古墳時代末期に作られていた「衝角付兜」の形に似ている。



衝角付兜

特徴二

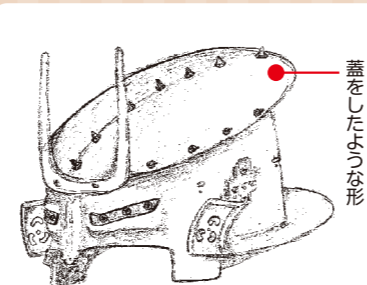
七間・八間の筋兜が多く、矧留鉾は鉄の座星を用い、眉を打ち出ししたりしている。



雑賀兜

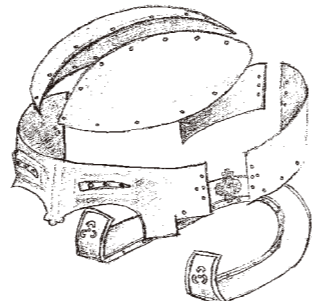
特徴三

短い筒状の上に蓋をしたような形をしているため、「置手拭形兜」と呼ばれることもある。



蓋をしたような形

雑賀兜(置手拭形兜)



雑賀兜(置手拭形兜) 組み立て前

日本の伝統的な星兜や筋兜と違って独特な形をしています。異国の兜に近いのは、紀伊国で海運や貿易も営んでいたからです。装飾がほとんどなく、素早い俊敏な動きに対応できる、実戦的な形が特徴です。



誰が使っていた?

天下統一を狙う織田信長の前に、突如現れた農民武装集団を「雑賀衆」と呼び、その集団が着用していた兜が「雑賀兜」と言われています。鉄砲をいち早く戦闘に取り入れたことで知られている雑賀衆は、前代未聞の連射戦術で信長に大打撃を与えます。焦って前線に出てきた信長に、なんと雑賀の弾丸が命中! その後、豊臣秀吉にも大打撃を与えますが、破れません。それから雑賀衆は、滅びた土豪勢力として帰農したり、鉄砲技術をもって大名に仕え、集団としては歴史から消滅していききました。

(*一度離村した農民が再び農業にもどること)



戦国時代、戦国武将が戦場で目立つ為・相手への威嚇を目的に、派手な装飾の兜が流行っていましたが、雑賀兜は違い、時代の流行りに流されないことに心を深く動かされました。現在、紀州で作られた物とはっきりわかり、銘のある雑賀兜は、3つしか見つからないそうです。かつ、銘のないものでも、現存数が非常に少なく希少価値の高い兜です。何より戦場での使い勝手を優先した、戦いのプロ武装集団が利用していたからでしょう。今回は「江戸時代の兜」について語らせて頂きます。



ハナエモンの

タイムスリップ!



笹の才蔵

可児吉長



かに よしなが 1554-1613年 通称、才蔵(さいぞう)

今年は「〜名人」にタイムスリップしています。今号は槍名人で有名なこの方にタ〜イムスリップ!

沢山の主君に仕えた槍の名手

吉長は美濃国可児郡で生まれたとされています。吉長はその生涯で、島正則と多数の武将に仕えています。何故、これほど主君を変えているのかというと、仕えている家が滅んだり、主君が相手でもはっきりと意見を言ったり、また吉長の方から愛想を尽かしたりと様々な理由があります。しかし、当時から人気のあった吉長は次の仕官先を見つけるのに苦労はしていなかったそうです。

16の兜首を取ってきました!!!

1582年(28歳)、織田信長が武田家を滅ぼした甲州征伐での出来事です。当時、森長可に仕えていた吉長。浪人から再仕官したばかりで馬に乗れる身分ではありませんでした。そんな状態にも関わらず大活躍し、戦後の首実検に、3つの首を持ってきて恩賞を貰いにきます。

吉長:「私は16の敵武将を討ち取りました!」
長可:「しかし、首は3つしか持ってないではないか?」
吉長:「重くて持ち歩けないので、討ち取った首の口に笹の葉を刺してききましたので、ご確認下さい」
実際に確認すると笹の葉が刺さっている首が戦場に。

吉長は笹を指物として、背中に背負って戦場に出ていたそうです。このエピソードから、「笹の才蔵」と呼ばれるようになったそうです。関ヶ原の戦いでも大活躍した吉長は18とも20とも云われる兜首を挙げ、槍働きでは一番の戦功を挙げたそうです。

雨の日の傘はとっても大事!

1584年(30歳)、羽柴秀吉と織田信雄・徳川家康が戦った小牧長久手での出来事です。当時、羽柴秀次に仕えていた吉長。徳川方が優勢になったと感じた吉長はこのままでは秀次軍も大変な被害を受けてしまうと感じ、秀次に撤退を建言しますが、聞き入れてもらえません。「くそくらえ!!!」と叫んで、一人撤退準備を始めます。その後、吉長の言った通り秀次軍も甚大な被害を受け、混乱状態に陥り、馬を失った秀次が徒歩で撤退をすることに。そこに馬に乗って撤退をしている吉長が現れます。

秀次:「吉長! 良いところに来た! 馬を貸せ!」
吉長:「雨の日の傘にて候」(意味:雨の日には傘が必要であるように、今この時に必要な馬は譲れない)
秀次:「・・・」
そう言い残し、主君を置き去りに馬で逃走した吉長。戦後、その話を聞いた秀吉からお叱りを受け、秀次の元を離れていった吉長。



命日を予言

吉長は若い頃より、愛宕権現を信仰していたそうです。「我は將軍地蔵の生まれ変わりだから、愛宕権現の縁日に死ぬ」と命日を予言していました。1613年6月24日、愛宕権現の縁日に朝から身を清め、甲冑を身に纏い、*床几に座り、予言通りにそのまま亡くなりました>(*戦場で使う簡易の椅子)

最後まで破天荒な吉長。最後に仕えた福島正則とは馬が合ったそうです。ある時、正則から贈り物もらった吉長。家来が贈り物を持ってきた時、袴を脱いで仮眠を取っていた吉長は慌てて袴を穿いて、本丸に向かってお礼を言います。家来に「寝転んでいるわしに殿からの贈り物を渡すなど、殿に失礼ではないか!!!」と叱ったそうです。その話を聞いた正則はとても喜び、「皆が吉長の様な心持ちならば」と言ったそうです。

